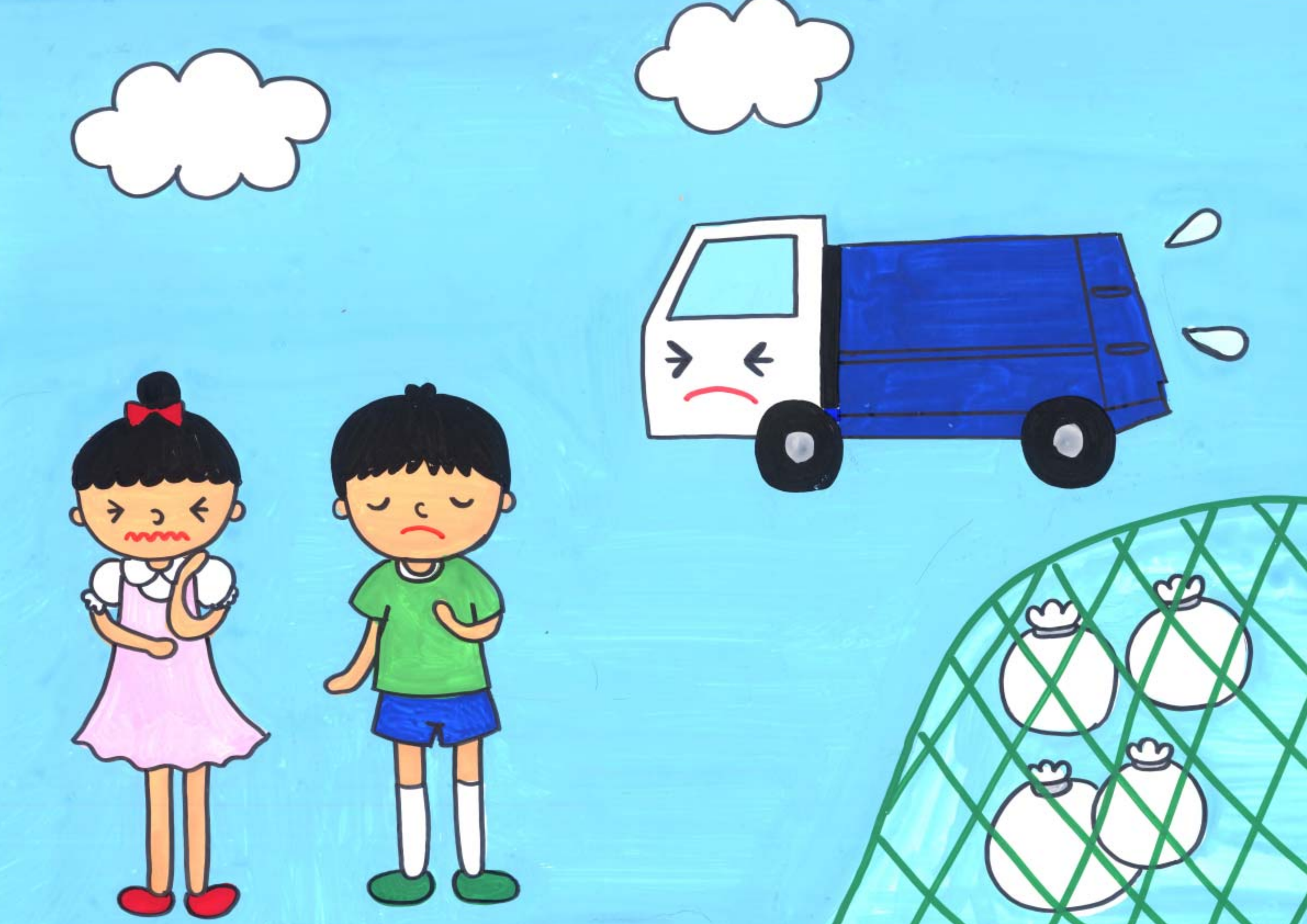
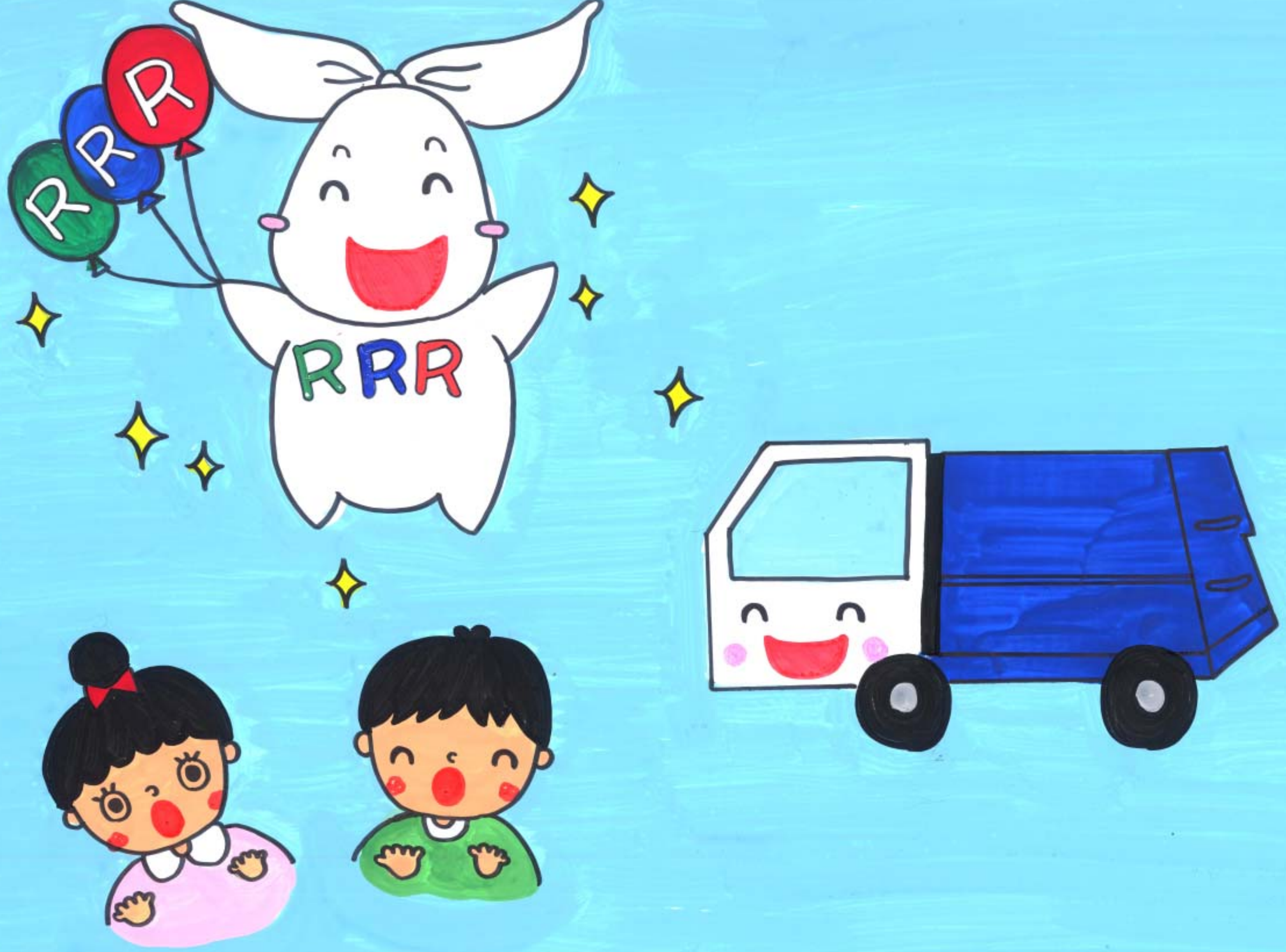
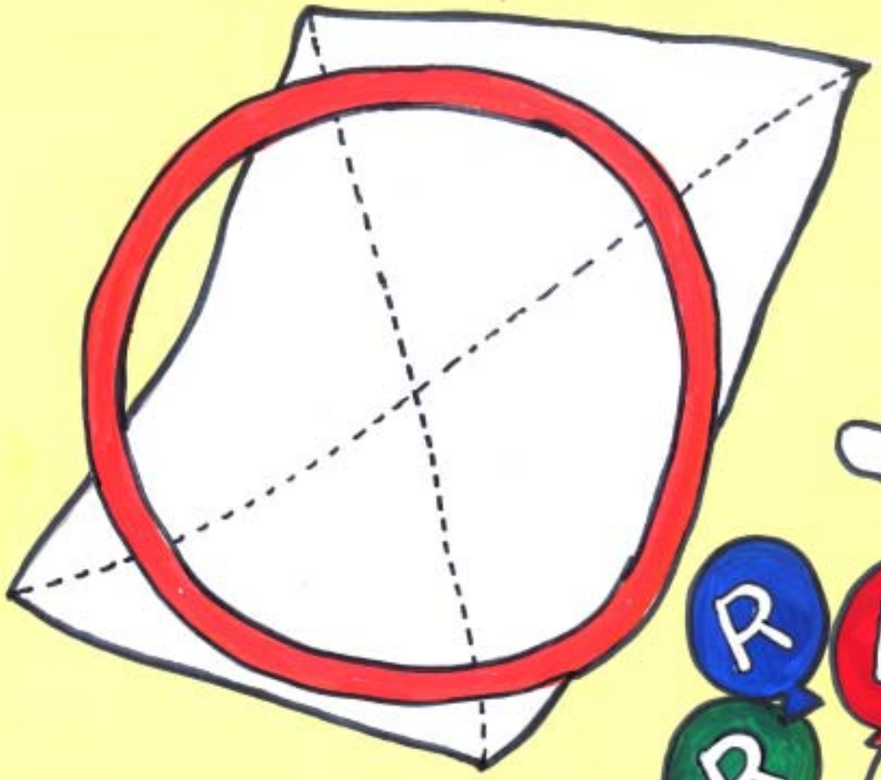
おなかがおもたい せいそうしゃくん

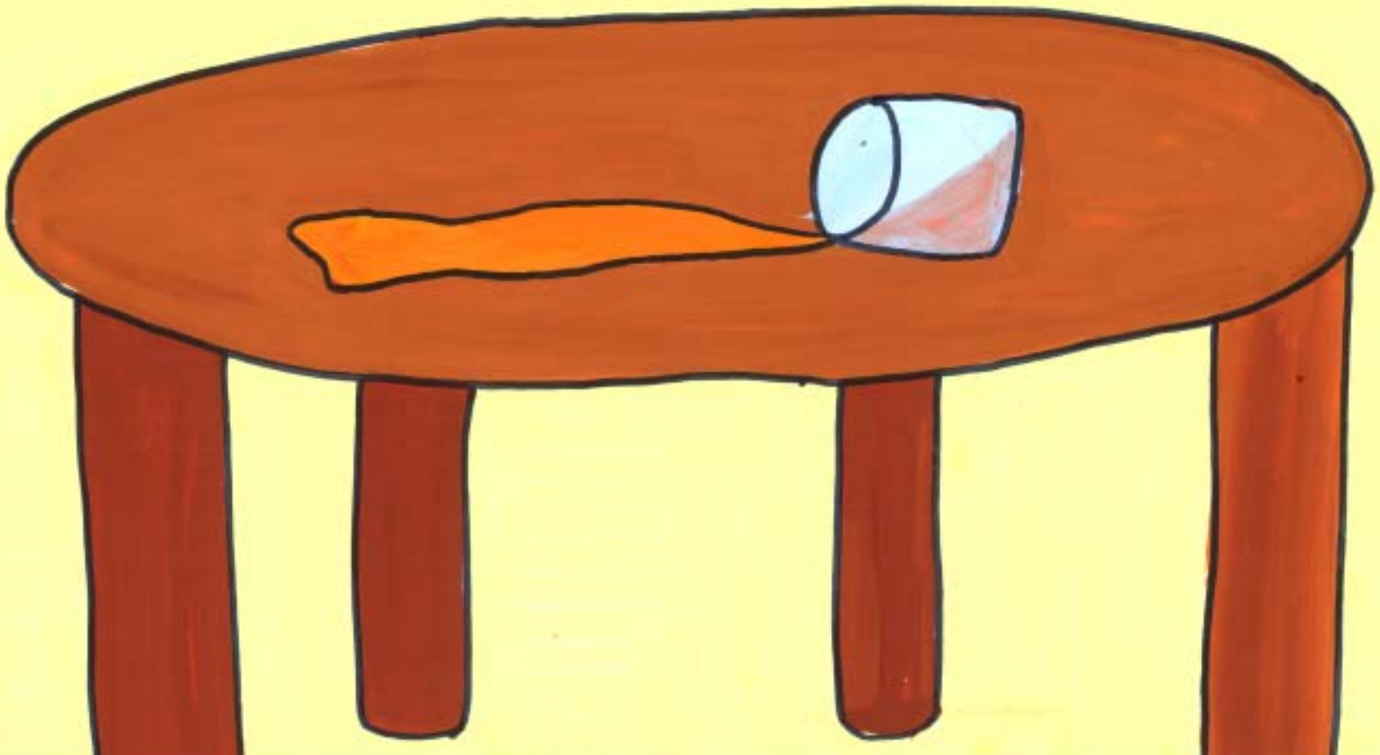


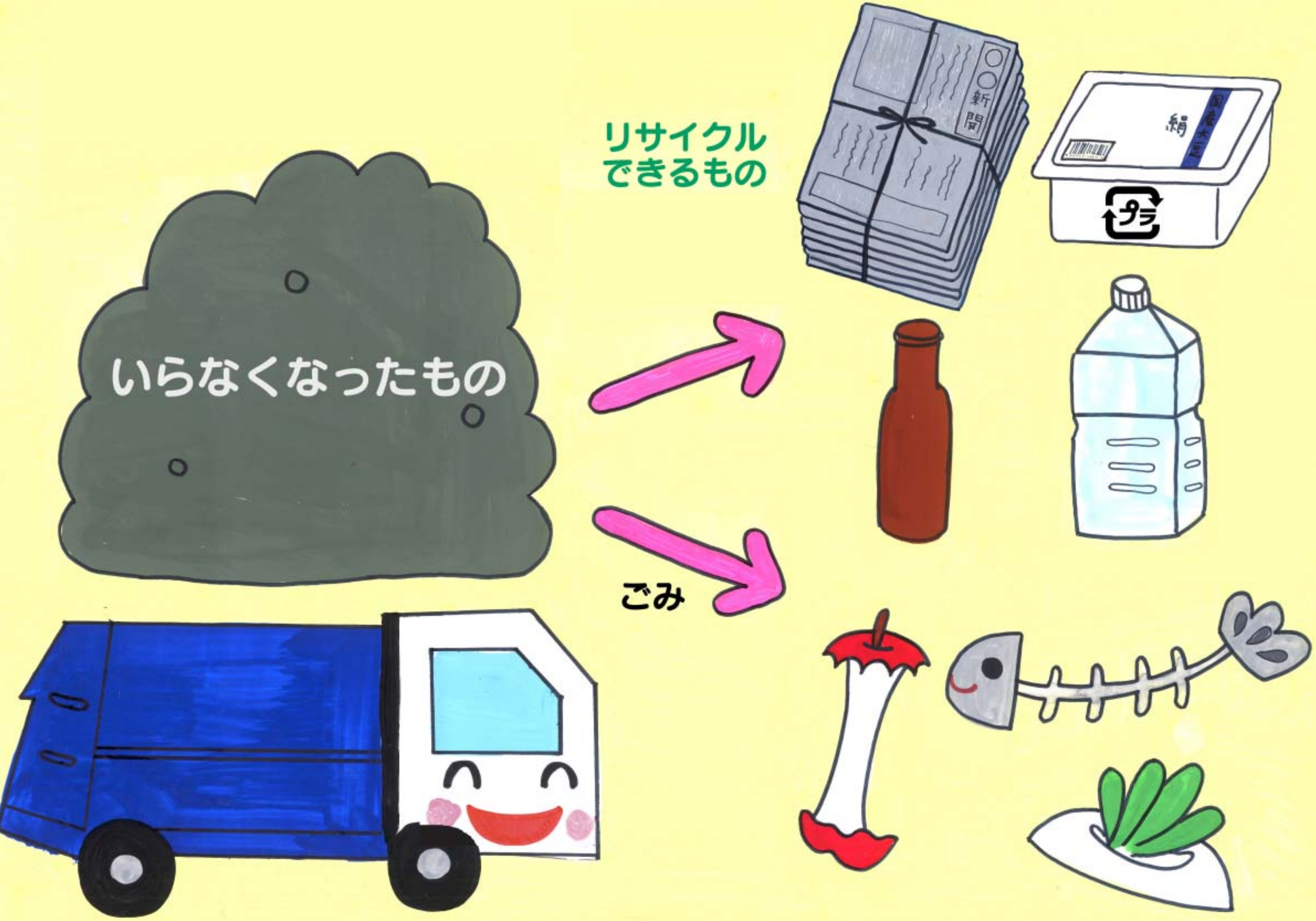

R
R
R
RRR

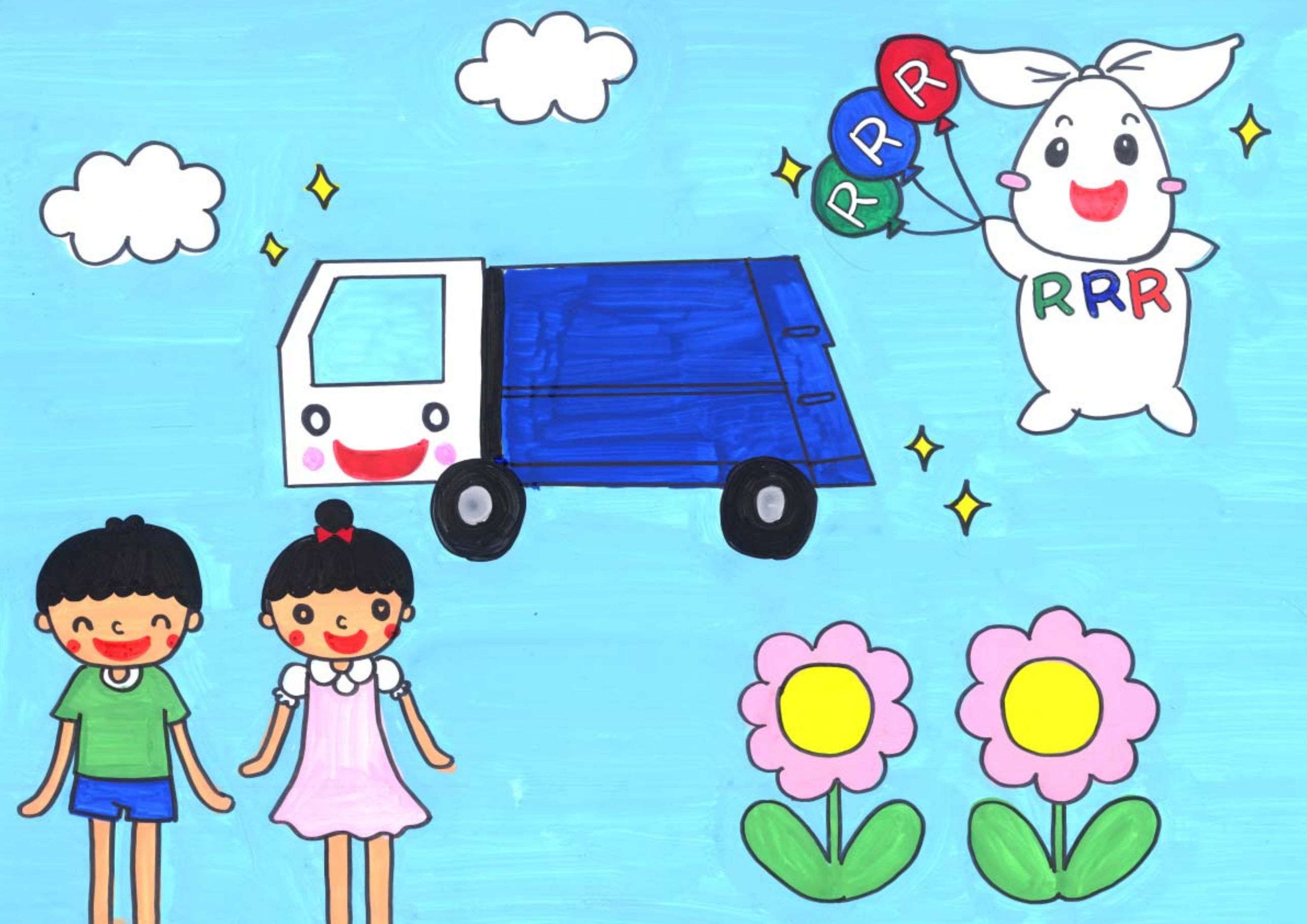
ポテトチップス
R
R
R
R
R
R



R
R
R
RRR




いらなくなったもの
リサイクル
できるもの
新聞
絹
プラ
ごみ


R
R
R
RRR

お腹が重たい清掃車くん

①

「こんにちは、
僕は清掃車です。
みんなのおうちから出るごみを、
運ぶことが僕の仕事です。

②

「そんな僕には、今とても心配なことがあります。それはね…、集めるごみがたくさんあって、お腹が重くなって動きにくくなってきたことなんだ。

それに、僕がごみを運ぶところ『埋立地』っていうところがもうすぐいっぱいになりそうなんだ。そうしたら僕は、どこにごみをもっていけばいいんだろう。」

と　清掃車くんが考えていると、そこにあいちゃんとはやとくんが心配そうにやってきました。

「大丈夫？清掃車くん。」

③

それを見ていた、
りーちゃんが、
空からおりて来て
みんなに話しかけました。
「ごみを減らせばいいんだよ！」

「君はだれ？」

「私は葛飾区のごみを減らすために、
遠い『ごみゼロの国』からやって来ました。
りーちゃんって呼んでね。
みんなと一緒に、ごみを減らすために
大切なことを考えていくよ。」

④

「りーちゃん、ごみを減らすって、どうすればいいの？」はやとくんが聞きました。

「一番大切なことは、毎日の生活でなるべくごみを出さないことなんだ。例えば・・・みんなごはんやおかしを食べるとき食べ残したりしていないかな？」

と　りーちゃんはいいました。

「あー、この前私、お腹がいっぱいなのにおかわりして、カレーを残しちゃった。」

「ぼくもごはんの前にお菓子を食べて、ごはんを残しちゃったよ。」

と　２人ともいっています。

そこで　りーちゃんは２人に教えてあげました。

「食べ残しはごみになっちゃうから、食べられる分だけもらおうね。」

⑤

「それから2人ともジュースなどを、こぼしてしまったら、ティッシュペーパーじゃなくて、なるべくぞうきんやふきんを使おうよ。」

「どうして？」

と　はやとくんが聞きました。

「ティッシュペーパーだと1回でごみになってしまうけど、ぞうきんのように、洗ってくりかえし使えるものを使うことで、ごみが減るからだよ。」

と　りーちゃんが答えました。

⑥

「それから、ものを大切にすること。
すぐに捨てずに
『まだ使えないかな』って、
考えてみよう。
それから最初からほんとうにいるもの
かなって考えてから買ったり、
もらったりするともっといいよね。」
とりーちゃんがいいました。

「くまのぬいぐるみも、私のお母さんに
頼んで直してもらえばいいんだね。」

「そうだ！
僕もみんなが持っているからって、
すぐに欲しがるのはやめよう。」

⑦

「そして、
どうしてもいらなくなったものは、
ごみとリサイクルできるものに
きちんと分けるんだ。
リサイクルできるものは
新しいものに生まれ変わるから、
ごみにしないでね。」
と　りーちゃんが
2人に教えてあげると、
清掃車くんも
「リサイクルできるものが
ごみと一緒に混ざっていたら、
僕はすぐにお腹がいっぱいに
なってしまって困るんだ。」
と　うなずきました。

⑧

「私、ごみを減らすように がんばるね。」

「ぼくもがんばるよ。」

「ありがとう。
みんなが少しずつ気をつけてくれれば、
ごみを減らすことができるね。」
と　清掃車くんはうれしそう。

「それに、ごみを減らせば、
埋立地も長く使えるんだ。」
と　りーちゃんも
2人ががんばってくれるので
うれしそうです。

「みんなも
あいちゃんとはやとくんみたいに
ごみを減らす工夫をしてね。」

おしまい

制作　葛飾区環境部リサイクル清掃課・清掃事務所
協力　日の出保育園